

2020-04-07

*事務局より

先のメール竹本大鶴さんの奈良まほろばの写真（北辰会HP 2020. 4. 6 掲載 “我が町「奈良桜井」山の辺の道を歩いて！”）を見て下記の様な感想が寄せられました。

23期 畑地豊です。

添付の原稿を配信下さいましてありがとうございました。
高槻に住んでおりますので、近くの京都ばかりに目を向け、足を延ばしている昨今の私ですが、日本国の故郷、古都奈良をもっと身近に感じて、足を向けなくてはいけないなと、思い知らされる衝撃のレポートとして心に響いて来ました。

私の故郷は奈良を通り越して熊野です。古代から、更には南北朝あたりになると、盛んにクローズアップされて歴史に登場します。

故郷の隣町には 竹原八郎という地侍をお祀りした「竹原神社」が有ります。氏は入鹿氏の一族で熊野落ちした護良親王を迎えて南朝方として活躍したと言われていいます。吉川英治の「私本太平記」にも登場します。

近年の私は、多くは熊野古道を歩いたりしているのですが、もっと奈良に遡らなくてはいけないなとしみじみ感じました。

「万葉集」の世界を歩く。京都の雅な世界から古都奈良へ変遷を考えたいと思います。

おわり



23期 畑地さん
(2019. 5. 16 施福寺にて)